

「反芻（はんすう）」とは、一度飲み込んだ食べ物を胃から口の中に戻して、再び噛んでからまた飲み込むことです。牛の胃袋は4つあって、口で噛んだ物が入った第一の胃は最も大きく200～300リットルもあり、微生物が多くあって草の纖維を発酵させて吸収しやすい形にします。第二の胃は第一の胃では消化しづらい食物を細かくして口に押し戻してゆっくり噛み直し、第三の胃に送り、すりつぶして水分やミネラルを吸収して第4の胃に送ります。第4の胃では胃液が出て消化します。

人間は纖維を消化できず、ふわふわの良い便にするだけですが、牛の第一の胃で微生物を育てタンパク質と脂肪酸を生成するのです。牛は青草50kg以上を食べ、水60～80リットルを飲みます。牛は7百～8百kgあります。反芻する牛と反芻しない馬では、はるかにエネルギー効率が反芻によつて高いそうです。羊も山羊も4つの胃があります。蹄が分かれていると、地面をしつかりつかんで歩むということで、物事を慎重に歩むという意味合いを含みます。山羊や羊は蹄が分かれているので、岩場や崖でも安定してジャンプなどもできます。豚やラクダは蹄が分かれているけれど反芻しないので、汚れているのです。

反芻することは、何度も時間を掛けて食べることで、捉えられなかつた難問も解決していくということを意味し、それで聖いとされるわけです。この時代の聖いとは、食べても問題がないということも意味しますが、聖書の教えは、聖という考え方を教えることを大事にしていました。捧げものにするのは、牛か羊か山羊でした。

「聖さを追い求めなさい。聖さがなければ、だれも主を見ることができません。」（ヘブル12・14）とあるように、物事を反芻して考え捉えることは、私たちの歩みと存在が聖であり、御心に沿つて歩むために必要なことです。

人は多くのことで失敗し、間違ったことをし、そして自己中心に行動します。ある人は、祈つたことで神からの保証を得たように考えます。

ひどい場合には、神の導きとか示されたと言います。「主の名をみだりに口にしてはならない。主は、主の名をみだりに口にする者を罰せすにはおかない。」（申命記5・11）とあるように、安易に神の導きを得ると考えるのは神を軽んじているからであつて、まさしく聖ではありません。

また、聖であることを求めていらない、大事なことだと考えていない人も多いようです。現代社会は、神を信じない無宗教の人が増えておりますが、信仰者でも、神に問い合わせながら行動する人は少なくなっています。神を軽率に捉えているのです。

「どうか、及び難いほど高い岩の上にわたしを導いてください。あなたは私の避け所」（詩篇61・2、3）、「この岩の上に、わたしの教会を建てます。」（マタイ16・18）とあるように、聖書は岩の上を大事にします。牛や羊や山羊は岩の上を上手に歩きます。敵から逃げる時、山羊は岩地や急傾斜の崖に行きます。

多くの人の行動を見る時、吟味せずに安易な道を歩きます。人々が多く歩いているから安全と考えるか、それは誘惑の道だと警戒するかで、人生は全く変わつてきます。つまり、それが聖か、俗かに関わつてくるのです。

私は多く本を読み、人生を想つて、高校の頃から、人にへつらつたり、信念に合わない職業を避けてきました。自分の行く道を吟味して生きることは、これから終末の困難な時代にあつて大事です。さらに、神の召しに従つて、自分という存在が如何に生きるべきかを時間を掛け反芻することをしなければなりません。

さて、教会は聖書の教えと時代を見て、よく反芻しなければなりません。実際に、多くの地域教会が整理統合され、信者数も減り、高齢化が進んでいます。また、牧師さんと信者さんを見ていると、幾つかのタイプがあります。聖書に忠実かつ信仰深く過ごすけれども、現実離れした考え方を持つている人。神は信じるけれども、現実の生活で成功し、豊かに幸せになることを願つている人。信仰も仕事も生活もほどほどにして、平凡に生きている人。・・・いろいろあります。

それらは立場としての信仰保持であつて、動的な信仰生活とは言い難い気がします。反芻とは、自分のあり方、日々の生活、行い、全てを聖靈の導きのもとに吟味し、それらを自らの過ち、愚かさ、正しさ、義などとして消化し、自らを形成していく糧にすることです。

信仰をもつて仕事をこなし、自らの歩みをしつかりと現実と御心に則つて前進していくことはかなり難しいことです。神の祝福を自らに注ぐように生きるのは、神にすがつていてはダメです。いつも試練や攻撃が付きまといます。それを神に委ねながら、よく反芻し、現実の生活をコツコツと信仰の法則にそつて対応していくのです。消化できないと吐き出してはいけません。それが十字架を負つて生きるということなのです。

1. 信仰に生きるキリストの弟子の養成

主の弟子は状況に左右されず聖霊に聞き従い、神を信じ人を信じて人々の救いと解放をもたらす。十字架に死んで神と共に生きるとは、自分と人々の罪からくる咎を覚悟し信仰と希望と愛とを持って福音の祝福の中に生きることである。キリストの弟子の養成こそ教会の使命である。

2. 真理と祈りと讃美に満ちた信仰生活の指導

聖書の教え、真理は人を自由にする。祈りは問題や悩みを解決し、神の御心を確認する。讃美は癒しと喜びと力を与える。教会はそれらを教え指導し、互いの交わりの中で模範を造り出していく。

3. キリストを頭として愛によって結び合わされた共同体の形成

教会には多種多様な人々が神によってこの世から召し出されてくる。この信者を整え、神への奉仕という使命を果たすように導くには、キリストの弟子として十字架を負い主に従う指導者層が確立されなければならない。整えられ愛し合い一致した教会こそ神の栄光が現され成長する。

4. 隣人に対する愛に基づいた執り成しと伝道の実践

神を愛する人は人をも愛し、行いを伴う信仰を持つ。真理を知らず罪と咎によって苦しんでいる人々を愛し、執り成し、福音を伝えることによってこそクリスチヤンは成長し、祝福される。

5. 地域と社会に貢献する魅力的な教会員の歩みと家族形成

教会と教会員の活動・事業・啓発運動を展開し、社会に影響を与えながら、同時に愛し合う家族を形成し、接する人々に福音を現していくことが、日本のリバイバルに必要であると私たちは信じる。

今週の聖書

申命記 14:1 あなたがたは、あなたがたの神、【主】の子どもである。死人のために自分の身を傷つけたり、また額を剃り上げたりしてはならない。

14:2 あなたは、あなたの神、【主】の聖なる民だからである。【主】は地の面のあらゆる民の中からあなたを選んで、ご自分の宝の民とされた。

14:3 あなたは、忌み嫌うべきものは、どのようなものも食べてはならない。

14:4 あなたがたが食べてもよい動物は牛、羊、やぎ、

14:5 鹿、かもしか、のろ鹿、野やぎ、くじか、大鹿、野羊。

14:6 ひづめが分かれ、完全に二つに割れているもので、反芻するものはすべて食べてもよい。

14:7 ただし、反芻するもの、あるいは、ひづめが分かれているものの中でも、らくだ、野うさぎ、岩だぬきは食べてはならない。これらは反芻するが、ひづめが分かれていないので、あなたがたには汚れたものである。

14:8 豚もそうである。ひづめは分かれているが、反芻しないので、あなたがたには汚れたものである。

Deu14:1 "You are the children of the Lord your God; you shall not cut yourselves nor shave the front of your head for the dead.

14:2 "For you are a holy people to the Lord your God, and the Lord has chosen you to be a people for Himself, a special treasure above all the peoples who are on the face of the earth.

14:3 "You shall not eat any detestable thing.

14:4 "These are the animals which you may eat: the ox, the sheep, the goat,

14:5 "the deer, the gazelle, the roe deer, the wild goat, the mountain goat, the antelope, and the mountain sheep.

14:6 "And you may eat every animal with cloven hooves, having the hoof split into two parts, and that chews the cud, among the animals.

14:7 "Nevertheless, of those that chew the cud or have cloven hooves, you shall not eat, such as these: the camel, the hare, and the rock hyrax; for they chew the cud but do not have cloven hooves; they are unclean for you.

14:8 "Also the swine is unclean for you, because it has cloven hooves, yet does not chew the cud; you shall not eat their flesh or touch their dead carcasses.